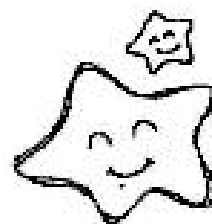


# QSK にぬふあぶし

No.278

ね  
子の方向の星



2019年度みんなねっと九州ブロック家族会精神保健福祉研修会  
『一人も取り残さない ゆいまーる沖縄大会』のご報告

この到底記憶できない、とてつもなく長いタイトルの大会が2020年1月30、31日の2日間、那覇市・パシフィックホテル沖縄で開催されました。奇しくもWHOが新型コロナウイルスに関して緊急事態宣言を発したのが1月31日のことでした。

## 特別企画「沖縄の私宅監置」

原義和監督が本大会のために制作した30分の映像が上映され、奥間政則さんからは国策としてのハンセン病、米軍基地の話があり、ジャーナリスト鎌田慧さんの言葉を引用しながら、“無関心はそれへの支持であり共犯である”という指摘がありました。

北部自立支援センター希輝々(きらら)の高原里緒さんからは、私宅監置小屋について、現住所に置くのは心配だし「福祉観光地」になるのは危険であり、沖縄県の責務として、県立博物館・美術館への移設という提案と同時に、取り壊しについては歴史がなかったことになるため反対との意見がありました。



## 基調講演「リカバリー 痛みの共有と連帯」

精神科医の稲田隆司医師の大変興味深い基調講演がありました。

ご自身の精神科医としての記憶の旅として、経験されたことに沿い、断酒会での出来事、敬愛される先輩医師の「名もなき隣人への愛」という言葉、アメリカのヘーゼルデン研究所での「尊厳と尊敬」が基礎という話、そして沖縄の(次頁へ)

(前頁より)

シャーマニズムについて、ユタと依存症者の共通性、ユタの弾圧とハンセン病、精神病患者への抑圧、差別、偏見、沖縄戦によるトラウマ、ストレス症候群、ひめゆりの運動、精神科リハビリにおいて沖縄の恩人とも言える島成郎医師の話と、シリーズで数回に分けて講演を聞きたくなるようなエキサイティングな時間でした。



### シンポジウム「沖縄からの風」

沖縄県立看護大学の大川嶺子先生の司会で、3人のシンポジストが発題。

沖縄市家族会「おあしすコール」の島袋照美会長からは、軽い気持ちで短絡的に始めた家族学習会が他の市町村へも広がったという報告があり、また、ご自身の経験から朝がくるのが嫌だった頃もあったが、今日は朝日がきれいだなと思いつながりながら会場に来たと話されていました。



「発達障がい 知る・つながる会」ニヌファスターの知花さおり代表は、地域における新しい支援の仕組み作りとして当事者会を立ち上げ、それは発達障害特性由来の悩みを分かち合い、痛みを共有し連帯する場であり、この支援が入口となって発達障害者が地域に出ていく構造になることを望んでいると発表されました。

就労継続支援B型「ワークプラザユニティー」の比嘉寿所長は、「僕のリカバリーストーリー」と題して、①原動力 ②葛藤 ③転機と3つのテーマで区切りながら事業所での20年間の仕事を振り返り、これまで継続できてきたのは、自分自身の弱さと向き合えたからと話されていました。

この大会の参加人数も延べで400人を超え、無事に2日間の日程を終えることができました。地域福祉のこれからを見据えて、また8年後の沖縄大会に向けて、しっかりと手応えを感じるこのできる大会だったと感じています。

## 支援センターおきなわ便り



### 新春合同もちつき会

毎年恒例、児童センターとの「合同もちつき会」を今年も開催しました。今年は室内での開催となりましたが、各関係者や地域の児童デイの子ども達をはじめ100名以上の方が参加して下さいました。地域活動支援センターおきなわ島所長の開会のあいさつをはじめ、ハワイアンフラサークル「レイモキハナ」さんのフラダンスや児童センターの子ども達のダンスも会場を盛り上げてくれました。もちつき体験も大賑わいの内に終わり、つきたてのお餅やおしるこも好評でした。



### こころの芸術・文化フェスティバル

「第15回こころの芸術・文化フェスティバル」に出展しました。結果はというと・・・、陶芸の部で優秀賞、絵画の部で奨励賞と計2名表彰される喜ばしい結果となりました。次年度に向けて他のメンバーさんの励みになったかと思えます。表彰式の帰り道では、「自分も出してみようかな」「何を出そうかな」等々早くも来年に向けて皆で語り合っていました。



## 今年も『きらりの集い』に行ってきました

去年のきらり島根に続いて、今年もきらり東京に3日間行ってきました。きらり島根は「たのしいきらり」でしたが、きらり東京は「学びのきらり」になりました。

なんとといっても分科会が映画上映から落語、精神科医の講演会から、当事者ミーティングなど約60、いや80くらい？ ありました。

わたしは3日間で、大会長・増川ねてるさんのワールドカフェや、広島の当事者の「分かち合いミーティング」に参加し、映画「おきなわへいこう」を観ました。また、高次脳機能障害を持つGOMAさんのディジュリドゥの素晴らしい演奏も拝聴しました。

ひとりで東京へ、ひとりで電車に乗るということは、行く前からとても不安に感じていました。でも、てるしのスタッフが電車の乗り換えアプリの見方を教えてくれたり、「やってみなきゃわからない」という言葉に東京行きの中を押されました。

また、きらり沖縄の実行委員、「Team きらり OKINAWA」のグループメッセンジャーで、メンバーが励ましてくれました。いちばん忘れてはならないのは、ホテルが一緒だった、鹿児島、広島、島根の3人の仲間です。東京に行く前からグループメッセンジャーを作って連絡を密にして、大会当日も支えてくれました。

みんなのおかげで、きらり東京に無事行って帰ってこれることができました。ありがとうございました。

きらり東京で、自信のついたわたしに出会うことができました。

来年のきらりの集いは札幌開催です。

西平千穂(\*^\_^\*)



(参加証のリストバンドです!)

### ◎編集後記◎

シンポ「沖縄からの風」で、ユニティー比嘉さんの話している「自分の弱さを受け入れること」。この「弱さ」について、私にとっても大切なテーマのひとつであると最近考えています。均質化を目指す社会のなかで、「弱さ」や「欠落」のような凸凹こそ、豊かな多様性のあらわれに感じます。(増山)

編集：公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 山田 圭吾

〒901-1104 島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

発行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 2-2-18

電話 092-753-9722 FAX 092-753-9723

定価：10円 (会費に含まれる)